

今年の夏はひときわ暑いようですが、皆様、お変わりありませんか。

6月18日(土)に開催した第1回思春期サポートプレイス講演会ですが、41名の方に御参加いただきました。御参加くださったみなさま、ありがとうございます。今号は、第1回思春期サポートプレイス講演会の御報告を中心にお送りします。合わせて今後の日程もお知らせしますので、ぜひ御参加ください。

今後、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、予定した講演会等が延期や中止となる場合がございます。最新の情報につきましては、当センターのWebページで御確認ください。

## 第1回 思春期サポートプレイス講演会 御報告

6/18(土)  
開催

講師 東京家政大学名誉教授  
東京家政大学大学院客員教授

相馬 誠一 先生

テーマ: 「不登校やひきこもり状態になりつつある子供に、今親ができること」

～ 相馬先生の御講演から、全国の教育支援センター(適応指導教室)の児童生徒の調査についての部分をお伝えします ～

「教育支援センター(適応指導教室)における不登校児への支援プログラム開発」(研究代表者 東京家政大学 相馬誠一)

○調査対象者・調査方法

全国の教育支援センター(適応指導教室)295か所に通室する児童生徒のうち、指導員が調査可能とした802名に質問紙を郵送し回収した。

○調査期間

2012年2月～7月

○不登校をめぐる意識

・不登校という状況の中で、勉強や進路のことが気になる様子が見られた。

・「学校に行けるものなら行きたい」気持ちと「そっとしておいてほしい」という相反する気持ちがみられた。

○質問紙調査から浮かび上がった、不登校の子供たちの声

学校に行きたくない?

→「行けるものなら行きたい。」

どうして行けないの?

→「学校へ行かない理由を聞いて、追い詰めないでほしい。」

「学校では休み時間が一番つらい。居場所がない。」

学校がしんどい。家は?

→「家だと安心できる。」

「でも、家族の反応が気になる。」

家族のことはどう思っている?

→「親の一言が気になる。」

この調査から分かることについて、相馬先生は、

- ・子供は保護者の方に自分のことを分かってほしいと思っているが、上手に言葉にできないている。
- ・子供は「そっとしておいてほしい」と思っているが、それは「何もしないでほしい」ということではない。
- ・子供の居場所づくりのための、最初の一步が難しい。その一步を踏み出すために、相談機関等、専門家に、まず保護者がつながるといい。

とおっしゃっていました。関係機関とつながるための最初の一步として、当センターの電話相談や来所相談等を、ぜひ御利用ください。

### \*\* 思春期サポートプレイス講演会 今後の予定 \*\*

第2回 令和4年10月15日(土)「思春期の心と体を理解するために家族ができること」

午後2時から午後4時30分まで

講師: 精神科医 武士清昭氏(児童思春期の精神疾患が御専門です)

第3回 令和5年1月21日(土)「子供が一步踏み出すきっかけや踏み出したとき等に家族との関わりを支えてくれる医療機関」

午後2時から午後4時30分まで

講師: 精神保健福祉士 西野博之氏(NPO フリースペースたまりば代表)

申込方法: 各開催日1か月前から、電話で受け付けます。03-3360-4192までお電話ください。(平日午前9時～午後5時)

### 教育相談

東京都教育相談センターでは、子育ての悩みや不安、お子様の状態の理解や関わり方等について、教育相談を行っております。まずは電話で御相談いただいた後、心理職による来所相談の申込みをお受けすることもできます。

0120-53-8288

24時間対応